

単元名 かん字の学しゅう

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 漢字の書き順や画の方向、接し方・交わり方、画と画との間、中心などを正しく理解し、字形を整えて書くことができる。
 (2) 漢字の書き順や字形、画の方向、接し方・交わり方、画と画の間、中心などについて考えたり気付いたりすることができる。
 (3) 漢字の書き順や字形、画の方向、接し方・交わり方、画と画との間、中心などに気を付けて、丁寧に書こうとする。

標準的な展開例

02020103_001

【教材名】 十・上／人・大・月・千／山・青・貝／作文／水・当 (P. 14～P. 25)

【準備等】 拡大文字，毛筆文字，分解文字，中心線入りの透明シート，中心線入りのます目用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 書き順の原則を確認して、書き順どおりに『十・上』『中・月』『口・兄』を書く。 ★書き順のきまりに気を付けて書こう ○『十』『上』を試し書きし、課題をつかむ。 ○書き順の原則を確かめる。</p> <p>○『十・土・かけ声』や『上・点・足音』を書き、似ている部分の書き順を確かめる。</p> <p>○『十』『上』をまとめ書きし、自己評価をする。</p> <p>○『中』『月』を試し書きし、課題をつかむ。 ○書き順の原則を確かめる。</p> <p>○『中・車・年』や『月・国・間』『口・兄』『シ・活』『サ・花』を書き、似ている部分の書き順を確かめる。</p> <p>○『中』『月』『口』『兄』をまとめ書きし、自己評価をする。 ○学習した漢字が入った言葉を書く。</p> <p>3～6 画の方向の違いに気を付けて書く。 ★画の方向に気を付けて書こう。 ○『人』『大』『月』『千』を試し書きし、課題をつかむ ○ノートやプリントなど、ふだんの学習で記述した文字を互いに見合い、よいところを伝え合う。</p> <p>○「左払い」の方向を確かめる。</p> <p>○『会』～『お手玉』を練習・まとめ書きし、自己評価をする。</p> <p>○『自分』『星空』『えい画』『見学』を試し書きし、「折れ」「曲がり」の方向を確かめる。</p> <p>○『自分』『星空』『えい画』『見学』を練習・まとめ書きし、自己評価をする。 ○『手紙』『思う』『雨音』『羽』を試し書きし、「そり」「点や画」の方向を確かめる。</p>	<p>・単元の課題をつかませる。</p> <p>・自分が書いた書き順を試し書きの文字に番号で書かせる。 ・教科書P. 14を指でなぞらせる。 ・「横から縦」「縦から横」それぞれ同じきまりで書ける文字を提示する。 ・書き順どおりに書いた文字とそうでない文字を提示して、書き順通りに書くと漢字の字形が整うことを理解できるようにする。 ・書き順の原則を考えながら書くように声掛けをする。 ・繰り返し練習させ、正しい書き順が理解できるようにする。 【評】練習を通して、書き順に関する「思考・判断・表現」を評価する。 【評】作品や自己評価を通して、書き順に関する「知識・技能」を評価する。 ・『十』『上』の書き順のきまりを振り返らせる。 ・教科書P. 15を指でなぞらせる。 ・書き順どおりに書くと字形が整うことを理解できるようにする。 ・書き順の原則を意識しながら書くようにさせる。 ・繰り返し練習させ、正しい書き順が理解できるようにする。 【評】練習を通して、書き順に関する「思考・判断・表現」を評価する。 【評】作品や自己評価を通して、書き順に関する「知識・技能」を評価する。 【評】書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・書き順を確かめてから試書させる。 ・書写で使う言葉で伝え合わせる。 ・よいところを学級全体で共有する。 【評】伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・同じ左払いでも、角度の違いがあることを教科書P. 16～P. 17の挿絵を使って説明をする。</p> <p>・空書させたり、教科書を指でなぞらせたりして理解を促す。 ・水書用筆を使って、「左払い」の方向の違いを体感させるとよい。 【評】作品や自己評価を通して、「左払い」に対する「知識・技能」を評価する。 ・拡大文字を用意し、それぞれの文字の「折れ」「曲がり」の部分の色分けして示し、画の方向に注目させる。 ・「折れ」には直角に折れるものと、やや鋭角に折れるものがあることに気付かせる。 【評】作品や自己評価を通して、「折れ」「曲がり」に対する「知識・技能」を評価する。 ・「そり」は、始筆から曲線が進み、終筆は「はね」になっていることに気付かせる。</p>

○『手紙』『思う』『雨音』『羽』を練習・まとめ書きし自己評価をする。

○「そり」「点や画」の方向が似ている漢字を見付け、見付けた漢字を使った言葉を書く。

○教科書P.19下段の『人』『大』『月』『千』の「試し書き」と「まとめ書き」を比べて、変わったことを話し合う。

7～9 画の長さや間隔に注意し、『山』『貝』を書く。

★画の長さや、画と画との間に気を付けて書こう

○『山』『青』『生』『出』『名』を試し書きし、課題をつかむ。

○画の長さの違いについて話し合う。

○画の長さの違いに気を付けて、『山』～『夕方』を練習・まとめ書きし、自己評価をする。

○『貝』『春』『思』『顔』を試し書きし、課題をつかむ

○点画の間隔について話し合う。

・横画どうし

・横画と縦画

・斜めの画どうし

○『貝』～『会場』を練習・まとめ書きし、自己評価をする。

○『名前』『思い出』を試し書きし、画の長さや画と画の間隔を確認する。

○『名前』『思い出』を練習・まとめ書きし、自己評価をする。

○学習した文字を使った言葉や学習したことが生かせる文字を見付けて書く。

10～11 画の付き方や交わり方に注意し、『作』『文』を書く。

★画の付き方や交わり方に気を付けて書こう

○『作』『文』を試し書きし、課題をつかむ。

○画の付き方を確かめる。

○『近』～『公』を練習する。

○画の交わり方を確かめる。

・交わり方…①斜めに交わる場合

②縦横に交わる場合

○『父』『千』『学校』『生活』を練習する。

○『作』『文』をまとめ書きし、自己評価をする。

○いろいろな画の付き方の文字や交わる画のある文字を書く。

12～14 文字の中心に注意し、『水』『当』『半』『市』を書く。

★文字の中心に気を付けて書こう

○『水』『当』『半』『市』を試し書きし、課題をつかむ

○文字の中心を確かめる。

・縦画が中心にある文字

・書き出しが中心の文字

○『半』～『夜空』を練習する。

・「点や画」は全て方向をそろえる字もあれば異なる字もあることに気付かせる。

・空書させたり、教科書を指でなぞらせたりして理解を促す。

・教科書P.19を参照し、書写で使う言葉を使って評価をするように助言する。

【評】作品や自己評価を通して、「そり」「点や画」に対する「知識・技能」を評価する。

・見付けた漢字を板書し、学級全体で共有する

【評】言葉を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・教科書P.19を参照させ、「何画目」の「どこが」「どうなったか」を伝えさせる。

・同じ方向の画について、画の長さに注目させ話し合いの焦点化を図る。

【評】話し合いを通して、画の長さに対する「思考・判断・表現」を評価する。

【評】作品や自己評価を通して、画の長さに対する「知識・技能」を評価する。

・分解文字を操作させて、点画の間隔をそろえると字形が整うことに気付かせる。

・間のとり方がそろっていない文字を示して印象を答えさせる。

・どの点画の間隔をそろえるとよいかを考えさせながら書かせる。

【評】作品や自己評価を通して、点画の間隔に対する「知識・技能」を評価する。

・教科書P.20～P.21を見ながら、学習したことを振り返らせる。

【評】作品や自己評価を通して、画の長さや画と画の間隔の取り方に対する「知識・技能」を評価する。

【評】文字や言葉を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・書き順を確認してから試し書きをさせる。

・画が付くとはどういう状態のことかを理解させる。

・教科書の文字を指でなぞらせたり、分解文字を操作させたりして、理解を促す。

・画と画が付く位置を考えながら書くように声かけをする。

【評】練習を通して、画の付き方に対する「思考・判断・表現」を評価する。

・線の交わっているところは、多くの場合、文字の中心を示す大事な部分であることに気付かせる。

・中心線のないまずに書けるように習熟を図る

【評】練習を通して、画の交わり方に対する「思考・判断・表現」を評価する。

【評】作品や自己評価を通して、画の付き方や交わり方に対する「知識・技能」を評価する

・赤で中心線を入れさせて確かめさせる。

・概形の中心が文字の中心となることを押さえる。

・まずの中心線を目安にして書くと書きやすいことに気付かせる。

- 『半』～『夜空』をまとめ書きし，自己評価する。
- 教科書P.25の教材文を試し書きし，課題をつかむ。
- 気を付けることを確認する。
 - ・まずに書くときのきまり
 - ①文頭の1字あけ
 - ②拗音・促音，句読点の位置
 - ・書き順，画の方向，画の長さ，画と画の間，画のつき方と交わり方，文字の中心
- 教材文をまとめ書きし，自己評価をする。
- 国語の教科書から書きたい文を選んで書く。

- 【評】練習の様子を通して，文字の中心に対する「思考・判断・表現」を評価する。
- 【評】作品や自己評価を通して，文字の中心に対する「知識・技能」を評価する。
 - ・『時』『丸』の書き順を確認してから試し書きをさせる。
 - ・これまでに学習した基本的なきまりを確認する。
 - ・用具の持ち方や姿勢も意識させる。
- 【評】作品や自己評価を通して，これまでの学習に関する「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】